

病害虫発生予報

第6号（9月予報）

令和7年8月28日
岐阜県病害虫防除所

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	9月予報	
			発生時期	発生量
水稻	穂いもち	岐阜・西濃、中濃地域	平年並	少
		飛騨地域		やや多
	ツマグロヨコバイ	岐阜・西濃、中濃地域	平年並	やや少
	トビイロウンカ	栽培地域全域	平年並	少
大豆	斑点米カメムシ類	岐阜・西濃、中濃地域	平年並	多
	カメムシ類	栽培地域全域	—	多
かき	ハマキムシ類	岐阜・西濃、中濃地域	やや早	多
	ハスモンヨトウ	栽培地域全域	—	多
なし	黒星病	岐阜・西濃、中濃地域	—	少
果樹共通	果樹カメムシ類	栽培地域全域	—	多
夏秋トマト	灰色かび病	中濃、東濃、飛騨地域	—	やや少
野菜一般	アブラムシ類	栽培地域全域	—	平年並
	ハスモンヨトウ	栽培地域全域	—	多
	タバコガ類	栽培地域全域	平年並	多
	アザミウマ類	栽培地域全域	—	平年並
施設野菜	コナジラミ類	岐阜・西濃地域	—	多

※発生時期の—は連続発生

【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。

外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産省）
<https://pesticide.maff.go.jp/>

【発生予報・根拠・注意事項等】

I 普通作物 1 水稻

穂いもち	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域	平年並（9月第3半旬頃）	少
	飛騨地域		やや多

（1）予報の根拠（発生量が多くなる要因を（+）、少なくなる要因を（-）で表記）

- ア 中晩生種の出穂期は、平年並と予想される（±）。
- イ 葉いもちの発病株率は、岐阜・西濃、飛騨地域で低く（-）、中濃、東濃地域で平年並みであった（±）。
- ウ 穂いもちの発病ほ場率は、岐阜・西濃で低く（-）、中濃、東濃地域で発病程度は軽微であったが高（±）、飛騨地域で高かった（+）。
- エ 向こう1ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（-）、降水量は少ない（-）と予想される。

（2）防除上注意すべき事項

- ア 出穂期以降の多雨は、本病の発生を助長するので、葉いもち多発ほ場では特に注意する。
- イ QoI 剤に対する耐性菌が確認されているため、薬剤の選択に注意する。
- ※ 病害虫図鑑「いもち病について」もあわせて参考にしてください。

ツマグロヨコバイ	対象地域	発生時期 <幼虫最盛期>	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域	平年並（9月第2半旬頃）	やや少

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯における誘殺数は、岐阜・西濃地域で少なく（－）、中濃地域が多かった（＋）。
- イ ほ場での発生量は、岐阜・西濃地域で平年並み（±）、中濃地域で少なかった（－）。
- ウ 向こう1ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 地域による発生量の差が大きいので、発生状況に注意する。
- ※ 病害虫図鑑「水稻 ツマグロヨコバイについて」もあわせて参考にしてください。

トビイロウンカ	対象地域	発生時期 <幼虫・成虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並	少

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯での誘殺は、認められていない（－）。
- イ 8月下旬調査で発生は、認められていない（－）。
- ウ 向こう1ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 今後の発生状況等について、「病害虫情報」等に注意する。
- ※ 病害虫図鑑「水稻 セジロウンカ・トビイロウンカについて」もあわせて参考にしてください。

斑点米カメムシ類	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域	平年並	多

(1) 予報の根拠

- ア 出穂期は、平年並と予想される（±）。
- イ 予察灯での誘殺数はアカスジカスミカメが多く（＋）、アカヒゲホソミドリカスミカメは平年並みであった（±）。
- ウ 本田でのすくい取り調査で、トゲシラホシカメムシの捕獲数が多かった（＋）。
- エ 向こう1ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 散布剤による防除は、穂揃期及びその7～10日後の2回を基本とし、必要に応じて追加防除を実施する。
- イ イネカメムシに対する防除適期は、他の斑点米カメムシ類より早く、散布剤は出穂期前後、粒剤では出穂5～10日前が防除適期となるため、前年の被害ほ場及びその近辺では防除時期に注意する。
- ※ 病害虫発生予察注意報第3号「水稻：斑点米カメムシ類」（令和7年7月18日）、病害虫図鑑「斑点米カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

2 大豆

カメムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯への初飛来は、岐阜・西濃地域で早かった（＋）。
- イ 予察灯における誘殺数は、岐阜・西濃地域が多かった（＋）。
- ウ ほ場での発生は、岐阜・西濃、東濃地域で認められていない（－）。
- エ 向こう1ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 雑草地が多い地域や山間地など、地域、ほ場によって発生状況が異なるため注意する。
- イ 播種が遅れたほ場については、防除時期に注意する。
- ※ 病害虫図鑑「大豆 カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

ハスモンヨトウ	対象地域	発生量
	栽培地域全域	多

(1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップにおける誘殺数は、岐阜・西濃地域で多かった（＋）。
- イ 白変葉の発生量は岐阜・西濃地域で多く（＋）、東濃地域では認められていない（－）。
- ウ 向こう１ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に重点を置く。
- イ フェロモントラップを設置してモニタリングしているほ場では、今後の誘殺数に十分注意する。
- ※ 病害虫発生予察注意報第５号「大豆、野菜類、果樹類および花き類：ハスモンヨトウ」（令和７年８月４日）、病害虫図鑑「大豆 ハスモンヨトウについて」もあわせて参考にしてください。

Ⅱ 果樹等作物

1 かき

ハマキムシ類	対象地域	発生時期＜第４世代幼虫最盛期＞	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域	やや早（１０月第２半旬頃）	多

(1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップにおける第２世代成虫の誘殺最盛期は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキでやや早かった（＋）。
- イ 予察灯における第２世代成虫誘殺数は、チャハマキ、チャノコカクモンハマキともに多かった（＋）。
- ウ フェロモントラップにおける第２世代成虫誘殺数は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキでやや多く（＋）、中濃地域のチャハマキで少なかった（－）。
- エ ほ場での第３世代幼虫被害果率は、岐阜・西濃地域で平年並み（±）、中濃地域で低かった（－）。
- オ 向こう１ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア ヘタ部やつづりあわせた葉内などに生息するため、薬剤防除はていねいに行う。
- ※ 病害虫図鑑「かき ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

2 なし

黒星病	対象地域	発生量
	岐阜・西濃、中濃地域	少

(1) 予報の根拠

- ア 発病葉率は、全域で低かった（－）。
- イ 岐阜・西濃地域の発病果率は低かった（－）。
- ウ 向こう１ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（－）、降水量は少ない（－）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 多発園では秋期防除を徹底し、次年度の伝染源の発生を抑制する。
- ※ 病害虫図鑑「なし 黒星病について」もあわせて参考にしてください。

3 果樹共通

カメムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯における成虫誘殺数は、飛騨地域で多く（＋）、岐阜・西濃、東濃地域で平年並み（±）、中濃地域でやや少なかった（－）。
- イ フェロモントラップにおける誘殺数は、飛騨地域で多く（＋）、その他の地域では平年並みであった（±）。
- ウ 向こう１ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 気温、湿度が高く、風が弱い夜間に飛来が多くなるので注意する。

※ 病虫害図鑑「果樹カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

Ⅲ 野菜

1 夏秋トマト

灰色かび病	対象地域	発生量
	中濃、東濃、飛騨地域	やや少

(1) 予報の根拠

ア 8月下旬調査で発病果は、認められなかった（－）。

イ 発病株率は、中濃地域で平年並（±）、東濃、飛騨地域でやや低い～低かった（－）。

ウ 向こう1ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（－）、降水量は少ない（－）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤耐性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

※ 病虫害図鑑「トマト 灰色かび病について」もあわせて参考にしてください。

2 野菜一般

アブラムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

(1) 予報の根拠

ア 黄色水盤での誘殺数は、岐阜・西濃、飛騨地域で少なく（－）、中濃地域で平年並み（±）、東濃地域で多かった（＋）。

イ ほ場での発生量は、ナスでは、岐阜・西濃地域で少なく（－）、中濃、東濃地域で多かった（＋）。トマトでは、中濃、東濃、飛騨地域で少なかった（－）。ダイコンでは、飛騨地域で少なかった（－）。

ウ 向こう1ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

※ 病虫害図鑑「ナス アブラムシ類について」もあわせて参考にしてください。

ハスモンヨトウ	対象地域	発生量
	栽培地域全域	多

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップの誘殺数は岐阜・西濃、東濃地域では、やや多～多く（＋）、中濃地域でやや少なかった（－）。

イ 岐阜・西濃地域のナスで被害を確認している（＋）。

ウ 向こう1ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に重点を置く。

※ 病虫害発生予察注意報第5号「大豆、野菜類、果樹類および花き類：ハスモンヨトウ」（令和7年8月4日）、病虫害図鑑「野菜類 ハスモンヨトウについて」もあわせて参考にしてください。

タバコガ類 （野菜類）	対象地域	発生時期 <若齢幼虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並（9月第2半旬頃）	多

(1) 予報の根拠

ア 野菜類のフェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数は、中濃、飛騨地域で多く（＋）、その他の地域は平年並みであった（±）。タバコガの誘殺数は、中濃、飛騨地域で多く（＋）、東濃地域で平年並みであった（±）。

イ 向こう1ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に重点を置く。

※ 病害虫発生予察注意報第4号「野菜・花き類：オオタバコガ」（令和7年7月31日）病害虫図鑑「ナス タバコガ類について」もあわせて参考にしてください。

アザミウマ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

(1) 予報の根拠

ア ナスほ場での発生は、岐阜・西濃地域で多く（＋）、中濃、東濃地域で少なかった（－）。トマトほ場での発生は、認められなかった（－）。

イ 向こう1ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

※ 病害虫図鑑「キュウリ ミナミキイロアザミウマについて」もあわせて参考にしてください。

3 施設野菜

コナジラミ類	対象地域	発生量
	岐阜・西濃地域	多

(1) 予報の根拠

ア トマト施設周辺に設置した黄色粘着板への誘殺数は、多かった（＋）。

イ 向こう1ヶ月（8/23～9/22）の気象予報によれば、気温は高く（＋）、降水量は少ない（＋）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。

※ 病害虫図鑑「トマト コナジラミ類について」もあわせて参考にしてください。

【参考資料1】【8月の調査における病害虫発生量】

作物名	病害虫名	調査地点での発生量：8月			
		岐阜・西濃地域	中濃地域	東濃地域	飛騨地域
水稻	穂いもち	少	少	少	やや多
	ツマグロヨコバイ	少	少	－	－
	トビイロウンカ	やや少	少	少	少
	斑点米カメムシ類	やや多	多	－	－
大豆	カメムシ類	多	－	多	－
	ハスモンヨトウ	多	－	並	－
かき	ハマキムシ類	やや多	多	－	－
なし	黒星病	少	少	－	－
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	やや多	やや多	多
夏秋トマト	灰色かび病	－	やや少	やや少	やや少
野菜一般	アブラムシ類	並～やや少	多	やや多	やや少
	ハスモンヨトウ	多	やや少	やや多	－
	タバコガ類	－	多	やや多	多
	アザミウマ類	多	やや少	やや少	並
施設野菜	コナジラミ類	多	－	－	－

※調査地点はほ場、予察灯、フェロモントラップ等

[参考資料2]

【東海地方1か月気象予報】（抜粋）—名古屋地方気象台 令和7年8月21日発表—

《予想される向こう1カ月の天候（8月23日から9月22日）》

6月中旬以降、気温のかなり高い状態が続いています。向こう1カ月の気温も、高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。また、6月下旬以降、太平洋高気圧に覆われやすく、降水量の少ない状態が続いている所があります。今後も太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1カ月の降水量は少なく、日照時間は多いでしょう。

[参考資料3]

《用語の基準と使用法》

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 半 旬 | 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。 |
| 2 | 時 期 | 平年並 平年値を中心として前後2日以内。
やや早い 平年値より3～5日早い。
やや遅い 平年値より3～5日遅い。
早い 平年値より6日以上早い。
遅い 平年値より6日以上遅い。 |
| 3 | 発生量 | 平年並 平年値を中心として、その値が±20%以内。
やや多い 平年値より、その値が21～40%多い。
やや少ない 平年値より、その値が21～40%少ない。
多い 平年値より、その値が41%以上多い。
少ない 平年値より、その値が41%以上少ない。 |
| 4 | 平年値 | 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。 |

病虫害防除所ホームページに、病虫害発生予察調査データを公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2979.html>

主要な病虫害の防除上の注意事項等については、「病虫害図鑑」をご活用ください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/12933.html>